

も依頼し、イベント直前に告知を行っていただきました。

開催日直前に、運営に協力できる高校生ボランティアを探しました。

予約フォームを作成して、当日の推定でどのくらいの人数が来場するのか確認しました。

<イベント当日>

このイベントは、3つの構成に分かれます。大久保結奈さんの講演、2つの講演の間にカフェのような憩いの場、山田修也さんの講演の3つです。各イベントは、1時間行いました。

イベント開始1時間ほど前、机や椅子などの配置を行い、講師の方との打ち合わせをしました。また、運営ボランティアとして参加してくれた高校生に役割の説明を改めて行いました。

イベント開始30分ほど前には、会場の外で呼び込みを行いました。呼び込みでは、思わず足をとめて講演を聞いてみたくなるような声掛けをしました。また、来場者には、コーヒーを提供しました。

イベント開始後、まずは場を和ませるためにレクリエーションを行いました。「YE S or NOゲーム」で、会場にいる人全員で行いました。10分ほど行った後、講師による講演を20分ほど行いました。残りの30分は、質疑応答の時間でした。中高生が積極的にたくさん質問をしていました。

どちらの講演も予約フォームで登録してくれた方はもちろん、中高生だけでなくたくさんの方に来ていただきました。



終演後は、来場者に講演会へのアンケートに回答していただきました。

来場者アンケート結果

どちらの講演も来場者は、全員「良い」と感じていました。(図1、2) また、多くの方が将来に向けて「たいへん役に立った」と感じていました。(図3、4) 総合的にみて、来場者にとって良い講演会だったと思われます。

今回の講演会の評価を教えてください。
9件の回答

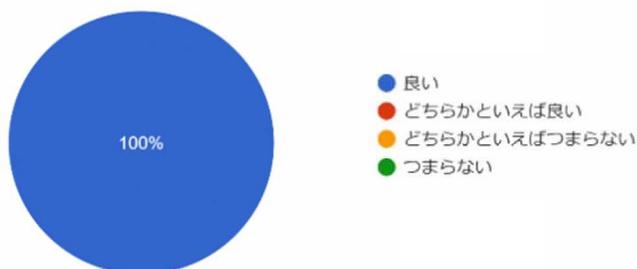


図 1 (大久保さんの講演)

今回の講演会の評価を教えてください。
10件の回答

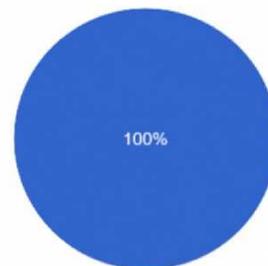


図 2 (山田さんの講演)

講演会を通して、自分の将来に向けて役立ちましたか。
9件の回答

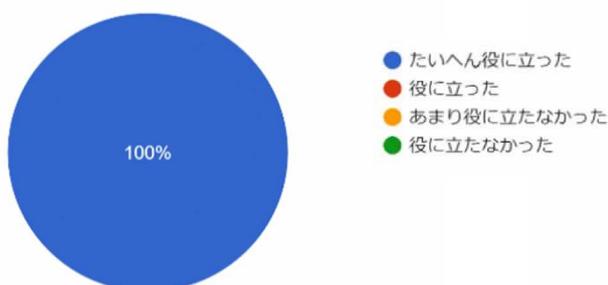


図 3 (大久保さんの講演)

講演会を通して、自分の将来に向けて役立ちましたか。
10件の回答

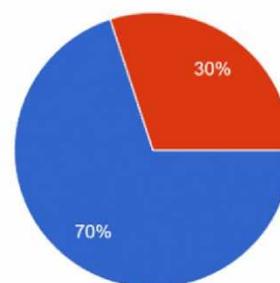


図 4 (山田さんの講演)

5 感想

チラシにとっても力を入れました。チラシの作成は初めてだったので、身の回りにあるチラシの良いところや工夫しているところ、チラシの在り方などを調べました。目を引くためにはどうすればよいのか、どのように工夫すれば分かりやすく伝わるのか、などを考えて何度も試行錯誤を繰り返しました。講師の方にも実際に見ていただきアドバイスを頂きました。工夫した点は、「将来」から連想される色を使ったり、「参加無料」という、思わず気になってしまう単語を左上にしたり、ポップなチラシの中に抑揚のある「先へ進め！」というキャッチコピーを入れたりしました。最終的にとても良いチラシが完成し、たくさんの方に見て頂きました。

チラシの他に、Instagram を活用し呼び込みを行いました。しかし、呼び込みをしても上

手に伝わらないところがあり、事前参加登録をして頂ける方が少なかったため焦りや危機感がありました。

当日も呼び込みを行いました。私たち高校生が声を出して呼び込みをしました。結果、足を止めて聞いていた方が多くいました。そして、会場内に足を運んでくださった方がいてとても嬉しかったです。

イベントが開始されると主な運営係の2人が司会を行いました。司会の話し方や態度などでイベントの雰囲気が変わります。そのため、堅苦しくならないように高い声で話したり、合間に盛り上がりを見せたり、あまりカンペを見すぎないように心がけました。ですが、慣れていないという理由もあり一定のトーンで話したり文章を間違えないようにカンペを見すぎたりしてしまいました。改めて、イベントを盛り上げる司会者の素晴らしさに気付くことができました。人集めはもちろんですが、司会進行のやり方も力を入れるべきだと思いました。

当日まで上手にいかないことが多くありました。途中でくじけそうになりましたが、自分の気持ちと一緒に運営してくれた友達が心強かったので乗り越えることができました。そして当日は問題なく成功させることができよかったです。

ドリーム・プロジェクトを通して、たくさんの貴重な体験ができました。ここで学んだことは忘れずに活かしていきたいです。将来に生かせることのできる良い経験になりました。ご協力してくださった皆様、来場者の方々、ありがとうございました。